

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	のびっこらんど三春（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 6日		令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 6日		令和7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんの特性を理解し、専門性のある支援を提供できている	日々、スタッフ間でその日の振り返りをしたり、隙間時間にもお子さんの支援について話したりする時間を設けている。その場にはいないスタッフにも必ず共有するようにしている。	それぞれの専門分野について、気軽に相談できるような雰囲気作りに努め、更に専門性の高いサービスを提供することができるよう努めていく。
2	お子さんが通所を楽しみにしており、尚且つ安心して通所することができている	スタッフ間でお子さんの様子や好きなものについて共有する時間を設けている。その日の活動の振り返りを行うとともに、活動やあそび、行動についての傾向についても話しをし、お子さんが安心できる、楽しむことができる環境を整えている。	スタッフ間でのコミュニケーションを円滑に行い、お子さんの情報はもちろん、支援方法などを日々アップデートしていく。
3	お子さんの発達や健康状態に対する共通理解を図ることができている	保護者と対面または電話、連絡帳を通して、その日の様子や健康状況について共有している。体調が不安定なときには、感染症マニュアルのほかに、保護者へ注意点や第一連絡先などを再度確認し、健康・安全に努めている。	お子さんの県境状態は、一人のスタッフで判断せず、他スタッフ、管理者と相談して判断する。少しの体調、様子の変化についてもすぐに相談・確認できるような体制を維持する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の様子を見て頂くことができなかつたり、直接話す機会がなかったりする可能性があること	保護者の就労の状況により、送迎サービスを利用している方が多く、文書や連絡帳、必要に応じて電話連絡などを通じてやりとりをしている状況。そのため、直接支援の様子を見て頂く機会が少なく、お子さんや活動の様子が伝わりづらい。	現在は、連絡帳に様子を記したり、写真を連絡帳に貼ったりすることで、お子さんの様子を把握して頂いている。今後、フリー開園日を設け、活動や支援の様子をみていただく機会を作っていく予定。
2	保護者同士の交流の機会が少ない、兄弟同士の交流の場が少ない	月1回ののびっこサロンや勉強会などのお知らせを配布しているが、平日ということもあり、参加が難しい保護者が多いのが現状。	年度初めに、のびっこサロンの年間計画表をお渡しし、見直しを持つことができるよう配慮する（実施している）。今後、土日開催ののびっこサロンも検討し、保護者の交流の場を設けられるよう努めていく。支援をお待ちの間、ご兄弟にスペースを開放したり、スタッフが関わって遊んだりする時間を設けております。
3	保育士所や認定こども園、幼稚園、地域の方々との交流の場を設けられていないこと	多人数や初めての人との関わりが苦手というお子さんもあり、事業所側が積極的に交流の機会を設けられていない。	保護者の同意を得て、行事へ地域の方を招待したり、見ていただいたりする機会を少しずつ取り入れていく。多人数との交流は難しいかもしれませんが、公園などの公共施設に足を運び、人との関わりを場を設けていきたいと思っております。なお、保育士所や認定こども園、幼稚園の先生方の見学は、随時受け付けており、連携・交流を図っています。